



2月の山菜: ふきのとう(佐渡全域で自生)

講習会の様子



↑丸パイプ型の魚道
↓四角い側溝型の魚道



魚道設置講習会

生物多様性を効果的に発揮させるために、魚道設置講習会が開かれ、多くの方が参加しました。

室内での講演もあり、講師の方の言葉を一部抜粋すると、「昔は雨が降ると川が増水して田んぼと繋がりが、ドジョウを始めとした多くの川魚が産卵場所として行き来していました。」とのことでした。

また、「現在では田んぼと河川が水路によって隔離され行き来できない」、「魚道は田んぼと河川、または水路を繋ぐ重要なものであり、その設置数が多い佐渡は全国的に見ても稀である」、とのことでした。

冬の生きものたち

寒くなり雪が積もると同時に見つけ難くなる生きもの…でも居なくなったわけではないのです。

ほとんどの生きものは越冬のために冬眠し、特に今年は雪もたくさん積もっているため容易には見られません。しかし、少し雪をよけて水の中を覗いてみると…ひっそりと静かに春が来るのを待っている生きものがいました。

今回撮影したもの以外では、浅い泥の中で冬眠しているドジョウやマルタニシが見つけやすいかもしれません。

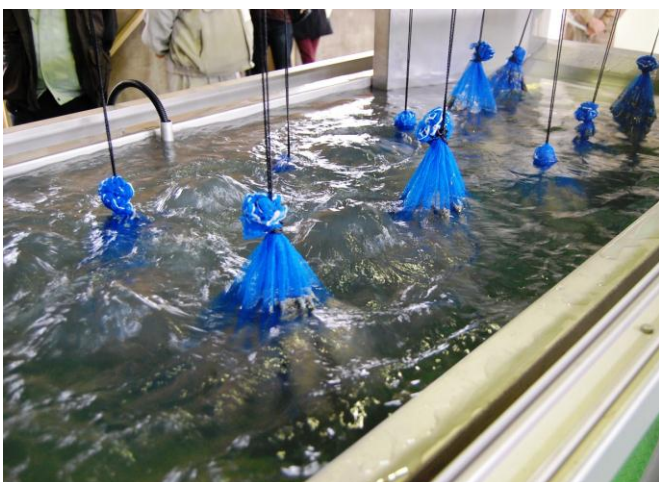


冬の「江」の様子



氷の下はちゃんと水があります

水の中には
カワニシが
いました



いい湯だなあ？

しっかり殺菌 温湯消毒

環境保全型農業の取り組みを進めているJA佐渡では、稲の種籾の消毒はお湯による温湯（おんとう）消毒という方法を行っています。

これは60℃のお湯に10分間種籾を浸して消毒するのですが、温度が低すぎても時間が短すぎても十分な効果が期待できません。逆に温度が高すぎたり、浸す時間が長すぎたりすると種籾が茹だってしまい、発芽不良の原因になります。

しかし、外は雪で真っ白、建物の中はお湯の湯気で真っ白と、すごい気温差…もしかしたら種籾の気持ちとしては、「もっとゆっくり暖かいお湯に浸かっていたいなあ」かもしれませんね…

佐渡米が日本穀物検定協会の食味ランキングで「特A」になりました！平成17年から連続ということで、とても喜んでます(^v^)



編集人；佐渡農業協同組合
営農部米穀課 渡部・吉田

beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp